

週報

こひつじ

第39巻 44号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

イエスにとどまる

その二 イエスに捕らえられた人生

人からだけでなく書物からもわえたのか。彼の言葉が深い人生体
れわれは魂を生かす養分を得るこ 験の中から溢れ出たものであつた
とができる。

たとえば内村鑑三の『キリスト 項目にあるとおり、彼は愛する
信徒のなぐさめ』は、次のような ものを失い、国人にも教会にも捨
てられ、事業に失敗し、貧と病を
項目からなっている。

- 一、愛する者の失せし時
- 二、国人に捨てられし時
- 三、キリスト教会に捨てられし時
- 四、事業に失敗せし時
- 五、貧に迫りし時
- 六、不治の病にかかりし時

この本は、多くの人の心をとら 全人格から溢れ出る豊かな樹液に
え、非常によく売れた。発行後わ よって養われるだろう。
ずかに三週間で第二版が出たほど では、どのようにしてイエスに
だった。

なぜ、それほどの影響を人に与 つながればよいのか。あるいは、
もしつながっているなら、それを

どのようにして知るのか。
パウロは自分の経験を、こう語
る。

「わたしは）ただ捕えようとして
追い求めている・・・そうするの
は、キリスト・イエスによって捕
えられているからである」口語訳
（ピリピ三の一二）と。

私は、これを読んでほっとした。
ああ、そうなのだ。ただ追い求
めるだけでよいのだ。追い求め
る人は、すでにイエスに捕らえら
れている。いや、イエスに捕らえら
れているからこそ、その人はイエ
スを追い求めるのではないか。

自分がすでにイエスに捕らえら
れていることを知ったパウロは、
安心して前に進んだ。そしてこう
言った。
「ただ、この一事に励んでいます。
すなわち、うしろのものを忘れ、
ひたむきに前のものに向かつて進
み」と。

これがイエスにつながっている
者の第一の特徴だ。

彼は、うしろを振り向かず、た
だ目の前の一事に励むのである。
あの有名な医者オスラーが発見

したのもそのことだった。

彼は医学実習生だった頃、自分
の将来の生活や今後の進路につい
て思い悩んでいた。そのときイギ
リスの思想家カーライルの次の言
葉に出会う。

「われわれの大事業とは、遠く離
れた所におぼるげにあるものを見
つめることではなくて、手もとに
はつきりとあることを行なうこと
である」

彼はのちにこう語っている。
「ごく平凡ではあったが、この言
葉は私の胸を打ち、私の脳裏を離
れず、私の役に立ってくれた」と。
イエスも言われた。

明日のことを心配するな。ただ
その日その日をしっかりと生きよ。
そして目の前の義務に励めと。

それがイエスにつながることに
とどまることなのではないだろう
か。

今日の礼拝

- 第一礼拝は午前一〇時から、
- 第二礼拝は午前一一時から。
- 教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は合志文利さん、奏楽は吉岡裕美さん。

○説教は宮元隆博さん。創世記一二章から、アブラハムの相続がどんなものであったかにふれ、われわれもまた、キリストにあつて神の相続人であると語ってくれました。

○証は三浦桂さん。

先週の出席

第一礼拝が四〇名、第二が四二名、合計八二名(男二八、女五四)子ども八名。合わせて九〇名。

関連教会の交流会

(グレイス・フェローシップ)

静岡県浜松市天竜にある研修宿泊施設で十一月五日から二泊三日で行なわれた関連教会の牧師会(グレイス・フェローシップ)には、以下の牧師たちが参加しま

した。

一、岩崎義幸牧師(日野キリスト教会) 東京都。

二、水上祥藏牧師夫妻(海老名キリスト教会) 神奈川県。

三、久志目栄司牧師夫妻(天竜めぐみキリスト教会) 静岡県。

四、ジョン・ポストロム宣教師(キリストのぞみ教会) 静岡県掛川市。

五、ポーロ・ポストロム宣教師(桜木クリスチャンセンター) 静岡県掛川市。

六、豊田信行牧師(ニューライフキリスト教会) 大阪府。

七、下沢賢司牧師(ニューホープチャペル) 滋賀県彦根市。

八、米村英二牧師夫妻(大津キリスト教会) 熊本県。

以上一名。

四年ぶりの交流会でした。それぞれの教会の近況を語り合い、ともに祈りました。

グレイス・フェローシップの教会は、以下の宣教師たちの助けを得て、設立されたものです。

一、ジャック・ロツカー

二、カールトン・ケニー

三、ジョージ・ポストロム

四、チャック・ニコラス

彼らはみな天に召されてしばらくたちますが、彼らの信仰とその生き方は今もそれぞれの教会に引き継がれています。

キリスト教との出会い

三浦 桂

私が初めてキリスト教に出会ったのは、幼稚園の頃です。母の希望で近所の園ではなく、自宅から少し離れた所にあるめぐみ幼稚園という園に通っていました。そこで年長の時に生誕劇をし、初めてイエス様について知りました。

小学校に進学すると、母が慈愛園というキリスト教の精神に基づく乳幼児施設で働き始め、私は放課後そこで母の仕事が終わるまでの時間を過ごしました。幼稚園に引き続き、そこでも食事前にはお祈りをし、頻繁にイエス様のお話を聞く機会がありました。なので、その頃から漠然と「イエス様は神の子」「神様は私たちのことを愛し、守ってくださいている」と認

識していました。

小学三年生の時、父の仕事の都合でアメリカへ引越しました。そこで両親が、教会で行なわれていた英会話クラスを受講するという目的で教会へ通うことになり、日曜礼拝にも時々出席することに なりました。当時は英語を理解できず、礼拝でどんな話が語られて

いるのかはわかりませんでした、学校で会う現地の友人たちは当たり前前に教会や日曜学校の話をするし、日常生活空間に「奉仕」の

空気が漂っていたように思います。日本に帰国してからは九州学院高校、ルーテル学院大学へと進学

しましたので、思い起こすと毎朝礼拝のある学校生活を七年間過ご

しました。私が大学三年生のとき、

母がアメリカで洗礼を受け、翌年帰国し、大津教会へ通うようにな

りました。私はこの時初めて、この教会を知りました。私の家にも

お祈りとお話を聞かされたので、こ

の教会を知りました。私の家にも

お祈りとお話を聞かされたので、こ

の教会を知りました。私の家にも

お祈りとお話を聞かされたので、こ

の教会を知りました。私の家にも

お祈りとお話を聞かされたので、こ